



道中だより

第 367 号

令和元年7月4日発行

・巻頭言
・第70回全日中総会報告
・地区だより・論文
・文芸・さりながら
・特別寄稿・大会案内
・地区研・事務局日誌



『教育目標達成のための組織力』 キーワードは「若者の人材育成」

北海道中学校長会 副会長 鹿野内 憲 一

校長としての残りの1年間で自校で何をすべきかを考えたとき、それは教育目標を達成するための組織力の強化であった。そのためには組織を構成する人づくり、つまり人材育成におのずと行き着いた。

本校の教職員の年齢構成は、全体の半数が20代～30代という若者である。今年度は特にこの経験値の少ない若者の育成に重きを置き取り組んでいる。

そこでまず、この若者つまり「今時の教師」はどんな特徴なのかを押さえておきたい。

★「今時の教師」の特性

- ①自己中心的である。
- ②他人とつながらなくても不便を感じない。
- ③「感情支配」的・イメージ優先である。
- ④大人の「常識」はもっていない。
- ⑤自分は優れていると思い込んでいる。
- ⑥目の前のことしか理解しようとししない。
- ⑦スマホを離せない。ネットでなら、他人とつながることができる。
- ⑧言葉の背景を理解しにくい。

表は安藤修平氏（「リーダー養成セミナー」主宰）によるものであるが、本校の若者の特性と重なる部分が多く見られる。これらの特性を押さえた人

材育成は、本来はOJTで取り組みたいのだが若者を指導すべき、また指導できる教員が少ない現状が障がいになっているため、校長が主導した方法を述べる。

(1) 校務分掌の配置

分掌のポイントは「適材適所」と「能力開発」である。今年度は「能力開発」を特に意識して校内人事を行った。その結果、2/3が初めての分掌となった。各自にその分掌におけるミッションを明確にして進めた。若者は、私の想像以上に意欲を高め、今まで外から見ていて気づいていた部分を自分の考えで変えようとしている。

(2) 学習会の企画・運営

「道徳学習会」を、最初校長が主導し、月1回（19:00～21:30）外部講師により開催することとした。講師は、他校の道徳の熟練指導者をお願いした。その後、企画・運営を若者にまかせ、学習する内容の打合せや調整を行わせ開催している。何を学びたいのか、学ぶためには何が必要かなど少しずつ身に付いてきていると感じる。

「今時の教師」と言われる若者の育成なくして、学校の組織力の強化や教育目標の達成、さらに、予測不能な課題の解決は困難であると強く感じている。

第70回

全日本中学校
校長会総会

第70回全日本中学校長会総会が5月22日、23日に開催された。東京・国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に、1日目は188人の代議員とオブザーバー・役員等が参加した。会長挨拶に続き、文部科学大臣等の祝辞が述べられた。議事では、下記の案件が審議、承認された。また、道中新沼潔会長が宣言・決議文を読み上げた。2日目には文部科学省初等中等教育局教育課程課長の講演があり、その後文部科学省行政説明が行われた。

〔第1日目 5月22日(水)〕

○議事

1 平成30年度会務報告

総務、会計、教育研究、教育情報、生徒指導、編集、事業、予算対策、給与対策の各部及び東日本大震災支援委員会、記念行事委員会、記念出版委員会より

2 平成30年度決算報告

3 令和元年度役員選出(会長及び道中関係分)

会 長	東京都荒川区立尾久八幡中学校	川越 豊彦
副会長	登別市立緑陽中学校	新沼 潔
会計監査	旭川市立中央中学校	伊東 義晃
理 事	札幌市立東栄中学校	鹿野内憲一
理 事	札幌市立北栄中学校	和田 正教
理 事	根室市立柏陵中学校	志道 仁

4 令和元年度活動方針

5 令和元年度予算

6 令和2年度第71回全日中研究協議会開催地

開催地 和歌山県和歌山市

開催日 令和2年10月22日(木)、23日(金)

7 令和2年度第71回全日中研究協議会主題・分科会研究題

・研究協議会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」

・分科会研究題(担当地区)

- (1) 「カリキュラム・マネジメント」の推進(中国)
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現(北海道)
- (3) よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実(近畿)
- (4) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実(九州)
- (5) 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実(四国)
- (6) 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実(東海北陸)
- (7) 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成(東北)
- (8) 地域との連携・協働による「チーム学校」の実現(関東甲信越)

8 宣言・決議

○特別企画 東京湾クルーズ

〔第2日目 5月23日(木)〕

○講演 「当面する初等中等教育上の諸課題」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課長
滝波 泰 氏

○文部科学省行政説明

説明 教育課程課・財務課・児童生徒課・文化庁・スポーツ庁

宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする関係法規、学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

全日本中学校長会は、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の信託に応えることを宣言する。



宣言決議文を読み上げる
道中新沼会長

決 議

第70回総会に当たり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育に努める。
- 一、全日中教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、学校が担うべき業務の精選・明確化により働き方改革を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けリーダーシップを発揮する。
- 一、東日本大震災をはじめ災害等により被災した地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全国各地・各学校における防災教育の充実を努める。

令和元年5月22日
第70回 全日本中学校長会総会

第70回

全日本中学校
校長会総会

令和元年 5 月 22 日

会 長 就 任 挨 拶

全日本中学校長会 会長 川 越 豊 彦 氏



ただ今、全日本中学校長会第43代会長として、御承認いただきました東京都荒川区立尾久八幡中学校長の川越豊彦でございます。新役員を代表して一言、御挨拶申し上げます。

この時代の変わり目に、大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄なことではありますが、中学校教育を取り巻く山積する課題に対し、解決に向けた確かな方向性を示していくという本会と会長の責務を考えますと身の引き締まる思いがいたします。

校長経験も浅く、微力ではございますが、全国9千余名の会員の皆様からの情報と知恵、勇気と力をお借りして、協力戮力の気持ちをもって、全国の中学校で学ぶ子供たちのため、会長としての責任を果たす覚悟でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

この1年間、本会の充実・発展のために、御尽力いただいた山本聖志会長をはじめ、副会長、理事、そして幹事の皆様、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

さて、会長就任に当たり、判断のよりどころとして、改めて本会会則を読み直しました。第2条に、本会の目的を次のように記してあります。「本会は、全国各都道府県中学校長会相互の緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与することを目的とする。」これを平たく言えば、「全国の校長先生方が、知恵を出し合い、協力して、中学校教育をよりよいものにして、未来社会の担い手である子供たちを育てていきましょう。」ということであろうと理解しております。

この目的を実現するために、全日本中学校長会として、これから取り組んでまいりたいと考えていることを3点述べさせていただきます。

1点目は、令和3年度に全面実施となる新学習指導要領の円滑な実施に向けた取組です。

近年、情報化やグローバル化といった社会変化が急速に進んでいます。その変化は、今後更に加速し、子供たちは予測困難な時代を生きることになると言われています。

そのような時代にあっても、子供たちが予測できない変化に対し、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮して未来社会を創り出す力が身に付くようにと学習指導要領が改訂されました。この新学習指導要領に託された願いは、社会の願いでもあります。

この願いに応えるため、学校は、教科横断的な視点に立って、社会に開かれた教育課程を編成・実施し、カリキュラム・マネジメントにより、学びの質の向上を図ることが求められています。また、全ての学習の基盤となる、言語能力や情報活用能力、あわせて、現代的な諸課題に対応できる力の育成も求められています。これらのことを実現するため、各学校では、必要な人的・物的資源などを効果的に組み合わせるなどして、創意工夫することが必要となってまいります。

しかし、学校の創意工夫だけで、子供たちに求められている力を身に付けさせることができるのでしょうか。日本中、どこに住んでいても、子供たちは、整ったICT環境を活用して、情報社会に対応できる情報活用能力を身に付けることができるのでしょうか。どこに住んでいても、ALTなどを活用して、グローバル社会に対応できる英語力を身に付けることができるのでしょうか。

新学習指導要領の理念を実現し、社会の期待に応えるためには、教育諸条件の整備・充実が不可欠です。学校

現場における創意工夫という内部努力を推進するとともに、教育諸条件の整備・充実について、全日中の組織力をもって働きかけてまいりたいと考えております。

2点目は、「学校における働き方改革」の推進です。

今年1月、中央教育審議会において、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」が取りまとめられました。この答申を踏まえ、30年2月の事務次官通知に加え、今年3月に、勤務時間管理の徹底、業務の明確化・適正化、組織運営体制の在り方などを内容とする事務次官通知が発出されました。この通知に基づき、「学校における働き方改革」の実現に向けて、各教育委員会において、一層、制度改正や制度設計が行われることと思います。

しかし、「学校における働き方改革」の実現は、教員の意識改革に負うところが極めて大きいと考えます。行政組織は制度改正や制度設計はできますが、教員の意識を変えることはできません。それができるのは、日々、教員と向き合っている私たち校長であります。先生たちが、時間的にも心理的にも余裕をもって、笑顔で教室に向かうことができるように、そして、その先にいる子供たちが笑顔で学校生活を送ることができるように、私たち校長が、教員の意識改革に取り組むことが必要です。あわせて、組織運営体制を改善するなどの内部努力を推進した上で、行政組織において更なる制度改正等が図られるよう、政策評価の根拠となり得るデータ等を「現場からの声」として、発信してまいりたいと考えております。

3点目は、「全日中教育ビジョン」の策定です。

全日中教育ビジョンは、平成21年に公表され、これまで2度の改訂を経て今日に至っております。この間、全日中教育ビジョンは私たち校長が、学校からの教育改革を推進する際の指針として、大きな役割を果たしてまいりました。この役割を継承するとともに、10年後の社会を見据え、学校からの教育改革が一層推進されるよう、新たな「全日中教育ビジョン」の策定に取り組んでまいります。ビジョン策定に当たっては、「安全・安心」が一つのキーワードになるかと考えております。平成は、東日本大震災をはじめ、多くの自然災害に見舞われた時代でした。そのときの記憶と記録を教訓として、今後の防災・減災教育の充実を図り、子供たちの命を守ることが、震災の記憶の風化防止にもつながると考えています。また、いじめにより子供自身が自らの命を絶つという悲しく、痛ましく、あってはならない出来事が後を絶ちません。子供たちが安心して学校生活を送ることができるように、いじめ防止についてもビジョンの中に位置付け、取り組んでいきたいと考えています。

さて、本会に関わるようになって、歴代会長をはじめとする諸先輩とお話しさせていただく機会が何度かございました。そこで、伺ったのは、

○全日本中学校長会は、教育のプロである全国の校長先生方を会員として構成し、教育の世界では、非常に大きな影響力をもつ組織であること

○そして、政策提言できるだけ大きな影響力をもつのは、全日本中学校長会が実践もあり、理論もある実践的専門家集団であるからということ

これらの、歴代会長をはじめ、諸先輩が築かれ、継承されてきたことを受け継ぎ、全日本中学校長会会長として皆様とともに歩んでいくことを、お誓い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

第70回

全日本中学
校長会総会

講 演

当面する初等中等教育上の諸課題 (要旨)

文部科学省初等中等教育局教育課程課長 滝 波 泰 氏



1 教育再生実行会議について

平成25年1月15日に教育再生実行会議を閣議決定後、有識者による会議をもち、現在まで10回にわたって提言を行ってきた。今後は、第11次提言に向けて取組を進めていく。あわせて、これまでの提言のフォローアップを継続的に行う予定である。

2 新しい時代の初等中等教育の在り方について

中央教育審議会において、①新時代に対応した義務教育の在り方②新時代に対応した高等学校教育の在り方③増加する外国人児童生徒への教育の在り方④これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等、について審議をお願いした。Society5.0の到来を見据え、初等中等教育の現状及び課題を踏まえながら、これからの初等中等教育の在り方について総合的に検討していきたい。

3 学校における働き方改革について

教員の勤務実態調査で明らかになった深刻な状況を踏まえ、中央教育審議会から学校における働き方改革に関する答申が行われた。働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることである。働き方改革実現のために、文科省・教育委員会・学校が一体となって施策を推進させていきたい。

4 教育の情報化の推進について

第3期教育振興基本計画において、ICT利活用のための基盤の整備を目標として掲げている。具体的には、①情報活用能力の育成②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた各教科等の指導におけるICT活用の推進③校務のICT化による教職員の業務負担軽減及び教育の質の向上④それらを実現するための基盤となる学校のICT環境整備の促進、について推進していく。また、「教師のICT活用指導力の改善」「学習者用コンピュータを3クラスに1クラス分程度整備」「普通教室における無線LANの100%整備」「超高速インターネットの100%整備」を測定指標として掲げ、2018年度から5か年計画で単年度1,805億円の地方財政措置を講じながら教育のICT化に向けた環境整備を進めている。

5 初等中等教育段階における外国語教育について

小中高を通じた外国語教育の充実が重要な課題である。新学習指導要領の全面実施に向け、中学校における外国語教育の課題の一つは、小学校の外国語活動との円滑な接続である。中学校はこれまでと同じ授業をするのではなく、中学校入学直後、導入期における指導の工夫が求められる。小学校と情報交換したり、授業を互いに見学することは不可欠である。もう一つの課題は、授業を本物のコミュニケーションの場とすることである。新学習指導要領では中学校においても英語で授業を行うことを基本とするとなっている。自分自身が感じたこと、考えたことを、話したり、書いたり、伝え合うという言語活動を授業の中心にすることが求められる。先日実施した全国学力・学習状況調査(英語)や大学入試共通プレテストでは実際にコミュニケーションの場を想定した出題がされている。日頃から小中連携の取組、英語による言語活動を中心とした授業改善を行うことが求められる。こうした取組を進めている学校においては生徒の英語力も高い。校長には、英語担当教師が意欲的に授業改善に取り組むことができるようリーダーシップを発揮していただきたい。

6 夜間中学の現状について

夜間中学は、戦後の混乱期の中で生活困窮等の理由から昼間に就労又は家事手伝い等を余儀なくされた学齢生徒が多かったことから、それらの生徒に義務教育の機会を提供することを目的として、昭和20年代初頭に中学校に付設された。昭和30年頃には、設置中学校数は80校以上を数えたが、就学援助策の充実や社会情勢の変化に伴って減少してきた(平成31年4月現在、9都府県27市区33校)。平成28年に成立した教育機会確保法において、全ての地方公共団体に夜間中学における就学の機会提供の措置を講ずることが義務化されている。今後、全ての都道府県に最低一校は夜間中学を設置できるよう促進し、教育活動の充実や受け入れる生徒の拡大を図っていきたい。

7 特別支援教育について

近年、児童生徒数が減少していく中で、特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童生徒、通級指導を受ける児童生徒は増加している。全ての学校、学級において教育的支援を必要とする児童生徒が在籍する可能性がある。このことを踏まえて、全ての教師に発達障害をはじめとして特別支援教育に関する一定の知識・技能が求められている。教師の専門性の向上に係る取組に関しては、今年度から教職課程において発達支援を含む特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒の理解を深める内容が独立した科目として位置付けられるようになり、内容も充実した形で扱われている。特別支援学校教諭等免許状保有率向上への取組も推進していく。また、中学校において通級指導を受ける生徒が増加している状況を踏まえ、平成30年度より高等学校においても通級による指導を実施できることとした。さらに、高等学校入試においては、公平性を基本としつつ、障害のある生徒に対し必要な配慮が行われるとともに、当該配慮が行われることにより不利益を受けない旨が生徒や保護者の間に浸透するよう十分な説明を行う等、必要な措置を講じる必要がある。各校長においては特別支援教育を組織的に取り組めるようリーダーシップを発揮していただきたい。

8 外国人児童生徒等に対する教育支援について

国際化の進展に伴い、公立学校に帰国、外国人児童生徒等、日本語指導が必要な児童生徒が多数在籍し、今後も増えることが予想される。また、多言語化、散在化の傾向がみられる。文科省では、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を充実させることにより、こうした児童生徒が自立できる力を育成するなど、共生社会の実現に向けた外国人児童生徒の育成を図ってきたい。

9 在外教育施設を活用したグローバル教師の育成について

在外教育施設とは、海外に在留する日本人の子供のために、国内の学校教育に準じた教育を主たる目的として海外に設置された教育施設である。このうち、文部科学省からは日本人学校と一部の補修授業校に国内から教師を派遣しているので、積極的な推薦をお願いしたい。

10 全国学力・学習状況調査等について

英語の話すこと調査に関わっては各校の多大な協力をいただき、実施できたことに感謝したい。また、結果の数値データによる単純な比較が行われ、それを上昇させることが主たる関心事とならないよう、実施の趣旨を踏まえ指導方法の充実・改善に努めていただきたい。来年は国語・数学の2教科となる。

「自立・協働し、未来を創る子どもを育成する学校」を目指して

恵庭市・恵庭中 鹿 野 秀 一

石狩管内小中学校長会は、新会員17人(小:8,中:9)を迎え、5市1町1村101人(小:64,中:37)で今年度の活動をスタートした。

本会は、教育改革の理念を踏まえた適正な学校経営を進め、学校力向上のための具体的な取組を推進している。その柱となるのは、市町村単位、A・B二つのブロック、そして春季・秋季の全体研修であり、これらを通して校長としての職能向上に努めている。関係機関や団体との連携も大事にしながら、石狩の風土に根ざした教育を推進していく。

【活動方針】

- 1 信頼される学校経営のもと、管内教育の安定と充実・発展に努める。
- 2 職能向上を目指す研修活動の推進と教職員の資質向上に努める。
- 3 管内における教育諸課題を把握し、その解決に努める。
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善や福利厚生への推進に努める。
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進に努める。
- 6 会員相互の交流活動の推進に努める。

新たな未来を紡ぎ、よりよい社会を創る力を育む札幌市中学校長会

札幌市・屯田北中 小 澤 保 範

札幌市中学校長会は、22人の新しい仲間を迎え、橋本敏昭会長の下、今年度の活動をスタートした。札幌市は、「札幌市教育振興基本計画」を改定し、目指す人間像「自立した札幌人」の育成を目指し、札幌市学校教育の重点として、「札幌らしい特色ある学校教育」「知・徳・体の調和のとれた育ち」等の推進に取り組んでいる。

本会も今年度は、「命を大切にする指導」「いじめや不登校等の解消に向けた取組」「学ぶ力の育成に向けた授業改善」「体力と運動能力の向上」「規範意識・情報モラルの醸成」「学校評価や学校職員評価に関する課題」「学校における働き方の見直し」等に一層真摯に取り組み、「情報共有と行動連携」を図りながら、会の組織と機能を一層充実させ、校長としての研さんと職能の向上を目指している。

【活動の重点】

- 1 校長会の組織・運営の強化と研修の充実
- 2 学校経営の改善と充実
- 3 学校経営の条件整備と教職員の待遇改善
- 4 教育関係機関や諸団体との連携強化

【研究活動】

『新たな未来を紡ぎ、よりよい社会を創る力を育む札幌市中学校教育』を研究基本主題に掲げ、3か年継続研究の取組の1年目となる。

地 区 だ よ り

連携を意識し、「一人一人の校長を支える」後志小中学校長会

後志・岩内第二中 簗 智 樹

後志小中学校長会は、小学校長39人、中学校長24人、計63人で構成している。一人一人が明確な経営ビジョンをもつべく鋭い時代感覚を磨きながら、創意ある取組と組織の活性化を図っている。

保護者や地域社会の負託と信頼に応えるとともに、「一人一人の校長を支える」を基本に後志教育の充実・発展に寄与しようと活動している。

【活動内容】

- 1 学校経営の充実
- 2 教育課程の充実
- 3 生徒指導・特別支援教育の充実
- 4 研究活動の充実
- 5 教職員の資質向上
- 6 教育諸条件の整備
- 7 教職員の処遇改善
- 8 校長会組織の強化と活動の充実

【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善の推進
- 2 教頭・主幹教諭・ミドルリーダーの育成を目指した研修等の充実
- 3 教職員の法令遵守、服務規律の厳正な保持に向けた管理職研修の推進
- 4 町村教育委員会と校長会の連携強化

「自立した強さとつながり」

小樽市・長橋中 岡 本 清 豪

小樽市中学校長会は、市の方針「知・徳・体のバランスのとれた人材の育成」に基づき、小樽の未来を託すことのできる人材育成を目指す教育推進のため、真摯に研究と実践を積み重ね、着実に成果をあげてきている。

今年度は昨年度に引き続き基本姿勢を「自立した強さとつながり」とした。その実現に向け①見通しをもって課題に取り組む「先見力」②ともに支え、学び高め合う「結束力」③課題解決に向けて着実に取り組む「行動力」を柱にしながら、選択と集中により実践と検証を進めていく。

【活動方針】

- 1 市の教育ビジョンを基盤とした着実な取組
①選択と集中による実践・検証
- 2 二つの部の充実 ①研究内容の充実 ②学び合いの深化
- 3 自主自立の確立 ①校長としての使命を自覚した自立した学校経営

【活動の重点】

- 1 小中一貫教育の推進
- 2 教職員の人材育成
- 3 学校の運営組織の整備
- 4 情報交流の工夫
- 5 生徒の学力・学習意欲の向上

子供のために最善を尽くす校長会

釧路・茶内中 松 村 浩 二

釧路校長会は6人の採用校長を迎えました。釧路管内の小中学校長24人、中学校長17人、小中併置校長4人、義務教育学校長1人の総勢46人で構成されています。今年度、武山昇会長を中心に、「5項目の方針」を確認し活動を開始しました。

【運営方針】(要約)

- 1 「釧路の風土に根ざす学校づくり」の経営感覚を磨き、職能の向上に努め、諸課題を解決する。
- 2 地域や保護者の信頼や期待に応え、「子供たちや教職員が明るく、楽しく学べる環境づくり」を志向する学校経営に努める。
- 3 現行の学習指導要領に基づいた児童生徒の「生きる力」を育む教育課程を編成・実施・評価し、改善を図るとともに、次期学習指導要領改定の趣旨を見据えて自校の課題解決にあたる。
- 4 教育関係団体、特に町村教育委員会と町村校長会との連携協力を密にし、教育の動向や情報の共有と諸課題への対応・解決に向け、迅速に行動するよう努める。
- 5 円滑な学校経営を目指し、釧路校長会綱領の趣旨に基づき、会員個々の意識を高めるとともに相互の絆をより一層深められるよう努める。

情報の共有と強い連帯意識をもち、
今日的諸課題に積極的に取り組む校長会

釧路市・幣舞中 秋 保 和 久

釧路市中学校長会は、新会員3人(新採用2人)を加えた15人の会員で、今年度の活動をスタートした。阿部典子会長の強いリーダーシップのもと、釧路市教育推進基本計画や釧路市教育行政方針を具現化するため、校長相互が強い連帯意識をもち、今日的な諸課題に積極的に取り組む校長会を目指していく。

【活動方針】(要約)

- 1 「命の尊さ」を第一とし、危機管理意識の醸成及び危機管理への対応を継続的に取り組む。
- 2 「社会に開かれた教育課程」の実現とともに「カリキュラム・マネジメント」の取組を推進する。
- 3 服務管理の適正化に努め、秩序ある学校運営を推進する。
- 4 自らの研さんと教職員の資質向上を高める工夫と意識改革に努める。
- 5 職能・専門性を高める研修を組織的に推進する。
- 6 諸課題に対して情報を共有し、一枚岩で取り組む。
- 7 会の独自性を発揮し、効果的な組織運営に努める。
- 8 行政及び関係機関との連携を密にし、学校運営上必要な諸課題の整備促進に努める。
- 9 組織の充実と会員相互の結束強化、親睦を図る。

地 区 だ よ り

高い志を語り合う
「チーム根室」を目指して

根室・啓雲中 二本柳 千 尋

根室管内小中学校校長会は、新採用校長10人を迎え、「継承と発展」を合い言葉に、管内教育を推進していく。今年度は、全42校の校長がそれぞれ「チーム根室」を強く意識し「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きてはたらく力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」を目指して活動する。

【活動方針】(要約)

- 1 教育をめぐる諸情勢を的確に捉え、校長の抱える問題を組織として共有化を図る。
- 2 信頼される公教育の確立を図り、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。
- 3 校長の学校経営力の向上を図り、地域に開かれた学校経営の改善・充実に努める。

【活動の重点】

- 1 家庭や地域社会に信頼される学校づくりの推進
- 2 社会に開かれた教育課程の実現を図る教育課程の編成・実施と評価・改善
- 3 研修活動の推進
- 4 教育諸条件の整備・充実
- 5 教職員の待遇改善の推進
- 6 校長会の業務改善と組織強化の推進

～新たな社会の形成に挑戦する子供の育成～
活力ある学校づくりにリーダーシップを

オホーツク・網走第一中 北 野 浩 幸

オホーツク管内小中学校校長会は、今年度12人の採用校長を迎え、総勢125人の会員で平成から令和へと移る記念すべき年度をスタートした。

4月13日には総会を開催して潮田信新会長を選出し、校長の明確なビジョンと鋭い時代感覚の下、「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努めること、子供たちが自立した人間として創造的に生きていくために必要な資質能力の育成を図ることを確認し、その実現のためにリーダーシップを発揮し、組織の活性化と教職員の資質・能力の向上に努め、活力ある学校づくりに全力で取り組む決意を新たにしました。今年度の活動重点は以下のとおり。

【活動の重点】(要約)

- 1 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施
- 3 時代の変化に即した生徒指導の充実
- 4 校長の資質・能力の向上を図る研修活動の推進
- 5 教職員の資質・能力の総合的な向上
- 6 組織内や関係機関との連携による組織強化
- 7 教育諸条件の改善と整備・充実
- 8 教職員の処遇改善

〈論 文〉

学校のアイデンティティを問い直し、 山積する教育課題に対応する

旭川市立北星中学校 金子圭一

1 はじめに

学力向上、体力向上をはじめ、いじめ・不登校への対応、道徳科の導入、ここに来て働き方改革の推進など教育課題は山積するばかりである。これまでPDC Aサイクルに基づき学校改善を繰り返してきたが、果たしてそれは有効だったのだろうか。未解決の課題に埋もれ、学校はアイデンティティを見失いつつあるように見える。学校はそのレゾントール（存在理由）を問い、本来のあるべき姿を取り戻すことが必要ではないかと考えた。

学校のアイデンティティを問い直すとは「我が校はいかなる学校か」をはっきりさせることである。それは、歴代の教職員をはじめ保護者や地域の人々が協力し営々と築き上げてきたその学校ならではの歴史や伝統であり他の学校に類を見ない特色ということができる。

2 本校の概要

北の中心で輝く北極星を校名の由来とする本校は、まさにその名のとおり輝かしい歴史をもつ市内有数の伝統校である。卒業生はまもなく二万人の大台に達し、各地・各界で活躍する人材を多数輩出している。地域の学校への愛着は強く、今なお熱い。

「めざす学校像」に「◇文化北星◇体力北星◇学力北星～品格ある校風～」と合言葉がある。「文化北星」と謳うとおり合唱部と吹奏楽部が設置されており今も「文化祭」を2日日程で実施している。校舎1階のエントランスホールに絵画、書、彫刻等幾多の美術作品を展示し「北星ギャラリー」と称し「品格ある校風」を醸し出している。品があって美しいメロディの校歌は長年愛され歌い継がれており、歌詞の一部が学校の教育目標になっている。「体力北星」「学力北星」も過去に輝かしい実績がある。

3 近年の状況

昨年度は、主幹教諭配置の一方で生徒数減少等の影響で定数減となり、部活動の指導体制を副顧問の掛け持ちで賄うなど教職員の負担が大きくなっていた。発達障がいや集団不適応等の生徒が多くなっており、いじめや不登校、ネットトラブルも少なからず発生していた。教職員は真面目な勤務態度で様々な課題にも真摯に取り組む一方、多くが多忙感を抱えていた。

4 アイデンティティの問い直し

教職員の多忙感の背景には、日々の教育指導の成果が生徒の成長となって見えにくい状況がある。本校で働く誇りとやりがいをもってもらうため、学校のアイデンティティを問い直した。「我が校はいかなる学校でどのような生徒を育てようとしているのか」。そのよりどころとしたのが校歌である。

◇望は広く 日々にたのし

◇真理（まこと）を愛し つねにつとむ

◇ともに鍛えんからだ 磨け精神（こころ）

遡ること19年前当時の校長が校歌の一節をとって教育目標とした。校歌自体は制定され66年になる。今年の入学式において「北星中学校のアイデンティティでありプライドです」と紹介した。

同時に、受け継がれてきた「めざす学校像」を踏まえ経営の基本方針を示した。

◎「品格ある校風」を引き継ぎ、『和顔愛語』で

一人一人が輝く楽しい学校づくり

『和顔愛語』は、学校像の「笑顔と歓声に満ちた活力ある学校」を表したものである。

5 教育課題への対応

この「北星アイデンティティ」をベースに教育課題への対応を図る。

(1) いじめ・不登校への対応

「いじめ・不登校への対応＝楽しい学校づくり」と捉え『和顔愛語』運動を推進する。笑顔と思いやりの言葉があふれる学校になるよう「ポジティブ名言シリーズ」など言語環境の整備に努める。

(2) 持続可能な部活動運営

学校規模に応じた持続可能な設置部活動数に見直しを図る。部活動育成会と協議し統廃合を進め「やりがい、仲間との絆、学校への愛着、挨拶や礼儀など社会性の涵養」を重視し指導に当たる。

(3) 学力を凌ぐ「生きる力」の育成

各教科や総合で「主体的・対話的・協働的な学習」を推進し「学びに向かう力」を育てる。生徒会活動やボランティア活動等を通し社会に貢献する喜びを得て自己肯定感を高める指導に努める。道徳科は、学校としての道徳教育の重点目標を明確にするとともに学年毎の重点指導内容を設定し、指導と評価の一体化を図る。

こうして培われた学びに向かう力や人間性は、学力を凌ぐ「生きる力」になると考える。

文 芸

ふるさと教育

初山別村立初山別中学校 熊 倉 一 弘

兎追ひし彼の山
小鮒釣りし彼の川

有名な唱歌「故郷」の冒頭です。陽を浴びて緑に輝く野山や泳ぐ小魚がはっきり見えるほど、透き通った清さで流れる小川など、作者のふるさとであろう小さな農村の風景が目浮かぶ歌詞です。

私が勤務する留萌管内においても、「故郷」同様に心象に残る風景が数多くあります。校舎の一室から見える日本海に茜色に沈む夕日、職員室の窓から眺める未だ雪の残る雄大な暑寒別岳、さらに、夏には蛍が飛び交う清い小川、秋には紅色の鮭が遡上する溪流…。このように美しい風景を日常に見ることができることをとても幸せに感じます。そして、この地で育つ子供たちもこの風景を自らのふるさとの心象として深く心に刻み、成長していくのだらうと思います。

今、ふるさと教育が重要視されています。全国学力・学習状況調査において北海道では「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」と肯定的な回答をした生徒は約59%と、自分の住んでいる地域「ふるさと」への関心は決して高いとは言えないようです。身近な地域での出来事を知り、地域特有の課題や背景にあ

る社会的な状況を理解し、自分事として考えることは、生徒が健全な社会の一員として成長するために大切なことであり、掛け替えのない自らのふるさとを心のよりどころとして捉える基盤となるものと考えます。

本校では地域でのボランティア活動や修学旅行において地域の自然、伝統的な文化などのPR活動を行うなど、主体的に地域と関わる学びを通して、ふるさに愛着と誇りをもつ心を育てようと考えています。子供は、生まれ育った地域の自然や文化から多くの影響を受けて自分を形成し、大人へと成長していきます。そのことを踏まえて、地域のよさを取り上げ、価値付け、時には課題について、仲間とともに考え、地域と自分の将来とをつなげる教育を充実させていこうと思います。

「故郷」の三番の歌詞は次のよう続きます。

志を果たして
いつの日にか歸らん
山は青き故郷
水は清き故郷

将来自己実現を果たし、振り返ると自らの心の背景に美しいふるさとがある。そのような生徒の心を育てていきたいと思います。

文 芸

「変わること」の難しさ

八雲町立熊石中学校 小 林 智 晴

「おまえ変わらないなあ」。古い友人や元同僚に会ったときに、時々言われる。若いと言ってくれているようだが、自分としては、変わらないとはすなわち昔の自分のまま成長しておらず、残念なことで、「成長してなくて…」という返しが、定番化している。

教員になった1校目は、全校生徒42人の小規模校で、やる気にあふれ、仕事を覚えるために一生懸命に取り組む、学年が終わるときには、大きな達成感と自己の成長を感じた。2校目で全校生徒1,300人ほどのマンモス校に異動したときは、全く違う校風や指導観に慣れるのにしばらくかかった。それでも、1年後にはこの学校で一番の学級を作ると一丁前に息巻き、荒れていた生徒ともがっぷり組み合せて、生徒指導と学級づくりに明け暮れた。言ってみれば1年で何とか、その学校の実情にあった自分に変化できたのかと思う。3校目、4校目では、学年代表や生徒指導部長、教務主任のように、役割が変わる度、その職務を果たす為の知識やスキルを、自ら求めていたように思う。30代までは、自ら学ぼうとしていたかもしれないが、40代ともなるとそれまでの経験で身に付けた自分なりの方法で対処できると思い、生意気にも

自分のやり方を変えることに抵抗感をもつようになった。当然、自分が成長している実感もあまりない。40代終わり頃、管理職を目指し、そこで初めて、管理職としての資質・能力を身に付ける必要性が出てきた。教頭になって、書類づくりや職員を動かすような実務には、どうしても長けていく必要があり、それなりに努力して成長もできた。しかし、そのときお仕えした校長先生方から感じた広くて高い見識のようなものを得るための勉強は、忙しさを言い訳に「できる範囲で」という言葉とともに、ほんのわずかな努力で濁していたように思う。

今春、校長に採用していただき、人前での挨拶や職員に指導するような場面、長くて広い視野での判断が求められることが続き、その度に変な汗をかいている。特に挨拶が苦手で、内容あることを原稿なしで流ちょうに、分かりやすく…。これまでの自分の能力では、なし得ないことである。さすがにこのままの自分で良いとは言えず、変わっていかなくてはならない。何とか、若い頃の学ぶ姿勢、変わることを受け入れる、いや望む姿勢を蘇らせて、今更ではあるが、成長していきたいと思う今日この頃である。



私が「体育教師になりたい。」と思ったのは、高校2年生の保健体育(鉄棒)の授業で、それまで一度もできなかった「蹴上がり」が、教科担任のアドバイスを受け、できたことがきっかけである。急遽大学進学を決めたため、親は慌てたらしい。

2度の教員採用試験を経て、稚内市立稚内東中学校に保健体育科教諭として着任。当時、ベテランの先輩教師がたくさんいたためか、新採用で何も分からない私がいきなりの1年生の担任。当初は「何故自分が？」と戸惑いや悩みも多々あったが、11年間の在職経験が教諭としての基礎となった。もちろん荒れた学校時代も経験したが、今思えば感謝の一言である。

その後は、歌登町で2校15年間。合わせて26年間、教諭として在職。この間、大変お世話になった多くの校長(退職された校長からも)や教頭から「いつ教頭になるんだ？」と声をかけていただいたが、「私が教頭だなんて。まだまだ、学級担任と保健体育、部活指導がしたいです。」と断り続けていた。

しかし、49歳の5月。体育祭に向けてグラウンドのライン引きをしている中、転倒し右肩を負傷。当時は3

蹴上がりから校長へ

利尻町立利尻中学校 大内 寿晃

年学級担任と女子バレー部の顧問を担当。板書するにも腕が上がらず、また、中体連目前になっても球出しがまともにできない状態。恥ずかしい話だが、教頭になることを決断したきっかけであった。

宗谷管内においては50歳での昇任教頭は遅く、利尻町で2年間、稚内市で4年間在職。この間3人の校長に大変お世話になり、内2人は教諭時代の先輩教諭であったことや、さらに、内1人は2度目の校長ということもあり、かなり甘えていたことを深く反省している。

3度の校長採用候補者選考を経て、校長となって2年目。明確なゴールとそれに向けた方針を示し、全教職員に浸透と徹底をさせなければならない。

現任校は教諭の平均年齢29歳と若く、職員室がいつも明るい。協働性や同僚性もある。

働き方改革が叫ばれる中、部活動を中心とする業務改善を図ってきたが、生徒の気持ちや保護者・地域の願いにもしっかりと耳を傾ける必要がある。開校3年目の校長として「何をすべきか＝何をしないべきか」を窓から見える、秀峰「利尻山」を眺めながら考える日々である。



学校は地域の宝

函館市立臼尻中学校 對馬 寿恵

「学校は地域の宝」教職に就き4校目になったあたりからであろうか、この言葉が常に心にある。きっかけは、歴史的建造物が数多く建ち並ぶ校区で保・小・中・高・大の各学校と地域が一堂に会する文化的イベントを立ち上げたときである。

担当になった私は、他校や地域の方々と協議を重ね町会を回る中で、親身になって子供たちのことを考えてくださる方々と出会い、たくさんの協力をいただいた。この活動を通して、学校(子供)は地域にとって宝であることを実感し、教育に対する責任の重さを強く感じることとなった。

また、教頭として閉校業務を掌った学校でのことである。同窓生、保護者、卒業生やその保護者、誰もが学校愛にあふれており、式典準備に伴う業務はもとより、同窓生から開校当時のことを語っていただくなど、数々の協力をいただいた。閉校式が終了してからも、統合時に生徒が困ってはいけなさと提言や配慮もいただいた。閉校後は“朝や帰りの時間に子供たちの姿がないって寂しいねえ……。”という声も聞いた。

そして、現在は教頭時代に勤務したことのある学

校に校長として勤務している。30数年の教職生活のうち、一般教諭時代を含めると10年ほどをこの地域で過ごしていることになる。着任当初、地域の方に、“お帰りなさい”と声をかけられ、ありがたいなあと思うと同時に、学校のもつ役割やこの方たちと何ができるだろうと思いを巡らせた。ちょうど昨年度から学校運営協議会が立ち上がり、まずは委員の皆さんからの情報をもとに安全マップの改定をおこなった。

さらに、私の描いている構想(妄想?)に賛同し、こんな人がいるよ、こんなこともやれるんじゃないと、意見を出し実現のために地域の方と学校をつなげるなど、心強い応援団となってくださっている。その結果、今年度は多くの方が本校の教育活動に関わってくださることになりそうだ。そんな彼らの根幹にあるのは“われらが学校”であり、“子供たちは宝”なのだ。

最後になるが、原稿を書くにあたり、『学校は地域の宝』と検索をしてみた。“家庭・地域・学校が連携し……”など、出てきたのはコミュニティ・スクールに関連する内容である。自分の中でいくつかのことがつながりすっきりした気持ちになった。

(特別寄稿)

自然体験活動の連携が 世界を変える？

宮島沼水鳥・湿地センター
専門員

牛 山 克 巳

「あなた方は子どもたちを何よりも愛していると
言いながら、その目の前で子どもたちの未来を奪っ
ています。」

16歳の環境活動家グレッタ・トゥーンベリは、深刻
な気候変動を招きながらその対策を先送りする大人
たちを痛烈に批判し、世界中に大きなうねりを引き
起こしています。

実は、若い世代から同様のメッセージは環境に関
する国際会議等の場で度々発せられています。人類
が自然環境から受けている恩恵は絶大で、その消失
と劣化の影響はこれから様々な形で若い世代に重く
のしかかってくるからです。

しかし、自然環境の消失と劣化はとどまることを
知りません。「生物多様性及び生態系サービスに関
する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）」の最新の報告書では、人類が過去50年間でい
かに劇的に地球を変え、人類に危機をもたらしてい
るかを浮き彫りにしました。それは北海道において
も同様です。豊かと思われている北海道の自然がい
かに不自然なものになっているか、多くの人は気づ
いていないかもしれません。

先日、宮島沼で活動する子どもグループ「マガレ
ンジャー」の発案で国内外来種であるトノサマガエ
ルの駆除活動を行いました。繁殖力旺盛なトノサマ
ガエルは、直接的、間接的に在来の生物に大きな影
響を与え、従来の生態系をがらりと変えてしまう恐
れがあります。もしかしたらそれは地域に住む人にと
ってはそれほど影響のないことかもしれませんが、
そうした日々の暮らしに関わらない、身近な自然
環境の変化に対する無関心の積み重ねが現在の
グローバルな窮状を招いたとは考えられないでしょ
うか。子どもたちと活動することで、地域の自然を
守り育むことの意味について少し気づかされたよう
な気がしました。

外来種の駆除活動に関わらず、自然体験活動から
気づき、学ぶことは数多くあります。「経験の消
失」時代と言われている昨今、子どもたちの自然体
験の重要性は広く認識されるようになりましたが、
地域の自然を守り育むためには、大人たちも一緒に
学び、考え、行動することが必要になってきます。
当センターのような自然系施設、学校、地域住民の
連携が、地域の自然を守り育み、世界を変える原動
力になるのではないかと感じています。

「つながり」を生かした 学校づくり地域づくり

浦河町教育委員会
教育長

浅 野 浩 嗣

社会教育が長い私にとって、学校教育はいろいろ
と新鮮なことが多い未知の領域である。

校長先生には釈迦に説法となるが、新学習指導
要領は、「社会に開かれた教育課程」を基本理念に、
「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改
善や「カリキュラム・マネジメント」による学校全
体での教育活動の充実などが求められている。

学校教育、特に義務教育は、子どもたちの自己実
現を助けるために教育を行うと同時に次世代の社会
を担う人材の育成もしている。であるから、今更社
会に開かれた教育課程なのかと感じるが。

さて、当町においても、小中学生の学力向上が大
きな課題であり、様々な対策を講じているところ
である。特に授業力向上のため、3年前から秋田県大
館市と交流を始め、教員の派遣など授業改善を進め
ている。ただ、学力は様々な要素が重なり合ってい
ることから、いろいろな手だてが必要となる。

そこで、いま気になっているのが、大阪大学大学
院の志水宏吉教授が、研究報告や著書で述べてい
る「つながり」（社会関係資本）が学力に影響を与
えるという考えである。国の調査等でも、家庭的背
景と学力には強い関係がみられ、家庭の経済的豊か
さ（経済資本）や親の学歴や文化活動など文化的環
境（文化資本）による学力格差が指摘されている。

これらに加え、親と子どもの家庭、学校、地域と
のつながり（社会関係資本）が学力に影響力をもつ
というものである。志水教授は著書の中で、「秋田
の小・中学生の好成績は、『つながり』の豊かさとい
う要因を入れてこそ初めて説明がつくのである。」
と述べている。大館市との交流を通して、授
業改善だけでなく、この点についても学びたいと考
えている。

来年度、町内3つの中学校区にコミュニティ・ス
クール（CS）を設置するが、学校を核とした地域
の「つながり」を再構築するチャンスと捉え、これ
を有効に機能させ、学力向上にもつながればと思う。

このため、学校と地域を結び、CSに活力を与え
る、「地域学校協働活動」を社会教育のもつ「つな
がり」を生かし推進しなければならない。

ある意味、CSが機能するかどうかによって社会
教育の真価が問われると言っても良い。

今こそ、子どもを架け橋とした、学校と地域の
「つながり」をより豊かなものにできればと考える。

第61回北海道中学校長会研究大会 空知・岩見沢大会に向けて

- 1 **基本主題** 『社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育』
～緑と心豊かで彩り鮮やかな空知・岩見沢から 新たな時代につなぐ資質・能力を求めて～
- 2 **主 催** 北海道中学校長会
- 3 **主 管** 空知校長会
- 4 **後 援** 北海道教育委員会 空知管内市町教育委員会教育長会 岩見沢市 岩見沢市教育委員会
空知教頭会 北空知PTA連合会 南空知PTA連合会
- 5 **期 日** 令和元年（2019年）9月27日(金)、28日(土)
- 6 **会 場** まなみーる文化センター ホテルサンプラザ 岩見沢平安閣
- 7 **大会概要** 【第1日目】 開会式、全日中会長情勢報告、全日中提案概要説明、分科会、教育懇談会
【第2日目】 文部科学省講話、記念講演、閉会式
- 8 **全日中群馬大会・提案概要説明**
提案者 富良野市立麓郷中学校 大 角 勝 之 校長（上川地区）
稚内市立潮見が丘中学校 塩 崎 由 雄 校長（宗谷地区）

9 分科会提言

分科会	研 究 主 題	提言者	研 究 の 視 点
1	創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施	【渡島】(松前町・松前中) 蛸 子 友 正 校長	新しい教育システムを有効活用した教育課程の編成・実施
2	確かな学力の定着を図る指導と評価	【石狩】(千歳市・北斗中) 佐 藤 誠 校長	地域に根ざした特色ある教育活動の推進
3	豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実	【根室】(標津町・標津中) 小 崎 伸 人 校長	生徒が利用するインターネット機器をめぐる問題への取組と情報教育
4	自らの生き方と社会性を育む教育の充実	【留萌】(留萌市・港南中) 大 井 学 校長	教職員の意識改革と協力して学校運営に参画する校内体制の充実
5	時代の要請に応える学校経営の充実	【帯広市】(帯広市・川西中) 黒 田 正 則 校長	家庭や地域、他校種との相互連携と学校経営

- 10 **記念講演** 講 師 株式会社セコマ 代表取締役社長 丸 谷 智 保 氏
演 題 『地域密着経営から見える実践的マネジメント』（予定）
- 11 **情勢報告** 全日本中学校長会会長 川 越 豊 彦 氏

第70回全日本中学校長会研究協議会群馬大会に向けて

- 1 **研究協議会主題** 『新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
- 2 **主 催** 全日本中学校長会 関東甲信越地区中学校長会
- 3 **主 管** 群馬県中学校長会
- 4 **後 援** 文部科学省 群馬県 群馬県教育委員会 前橋市 前橋市教育委員会 他
- 5 **期 日** 令和元年（2019年）10月23日(水)、24日(木)、25日(金)
- 6 **会 場** 第1日 前橋商工会議所会館
第2日 ベイシア文化ホール 前橋テルサ 前橋商工会議所会館
第3日 ベイシア文化ホール
- 7 **分科会** 【北海道地区担当分】
〈第3分科会研究題 よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実〉
提案者 富良野市立麓郷中学校 大 角 勝 之 校長（上川地区）
稚内市立潮見が丘中学校 塩 崎 由 雄 校長（宗谷地区）
司 会 富良野市立樹海中学校 福 澤 秀 校長（上川地区）
枝幸町立枝幸中学校 加 賀 誠 校長（宗谷地区）

8 全体日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
第1日	23日 (水)			受付	全 日 中 常任理事会	受付	全日中理事会			受付	歓迎の集い レセプション	
第2日	24日 (木)	受付	開会式	文科省 説明	全体 協議会	昼・食 移・動	分科会					
第3日	25日 (金)	受付	アトラク ション	全体 会	記念講演	閉会 式						

- 9 **記念講演** 講 師 作家 横 山 秀 夫 氏
- 10 **アトラクション** 内 容 マンドリン演奏・合唱
出 演 伊勢崎市立第三中学校ギターマンドリン部・合唱部

令和元年度 地区別教育経営研究会計画 (6月27日現在)

道中経営部・道小経営部

地 区	開催地	会 場	開 催 日 程		担 当 者		形 態
			月日(曜)	時 程	氏 名	勤 務 校	
石 狩	北広島市	石狩教育研修センター	10月8日(火)	13:30～16:00	濱 本 賢 一	恵庭市・恵北中	共 催
札 幌 小	札幌市	ホテルライフオート札幌	10月8日(火)	14:00～16:45	出 葉 充	札幌市・桑園小	小 独 法制研と併催
札 幌 中	札幌市	ホテルライフオート札幌	9月4日(水)	13:00～14:45	中 村 邦 彦	札幌市・伏見中	中 独
後 志	倶知安町	ホテル第一会館	8月7日(水)	13:00～15:45	皆 川 一 海	赤井川村・都小	共 催 法制研と併催
小 樽	小樽市	ジブラルタ生命ビル	8月6日(火)	13:00～15:00	森 万喜子	小樽市・朝里中	共 催 法制研と併催
上 川	旭川市	上川教育研修センター	8月6日(火)	13:30～15:40	藤 弘 のぞみ	下川町・下川中	共 催
旭 川 小	旭川市	神楽公民館	8月6日(火)	10:00～11:35	池 田 卓 平	旭川市・共栄小	小 独
旭 川 中	旭川市	神楽公民館	8月6日(火)	10:00～11:30	林 欽 一	旭川市・神居中	中 独
宗 谷	稚内市	稚内総合文化センター	7月31日(水)	9:00～11:20	三野宮 誠 一	猿払村・浅芽野小	共 催 法制研と併催
留 萌	苫前町	苫前町公民館	9月24日(火)	10:00～15:30	堀 井 理	留萌市・潮静小	共 催
檜 山	上ノ国町	総合福祉センター (ジョイじょぐら)	10月4日(金)	9:15～16:30	笠 松 靖 史	せたな町・北檜山小	共 催
渡島・函館	七飯町	大中山コモン	9月5日(木)	13:00～16:00	植 山 聡	七飯町・大沼中	共 催
空 知	岩見沢市	ホテルサンプラザ	11月6日(水)	13:00～16:30	田 村 和 幸	砂川市・石山中	共 催 法制研と併催
胆 振	登別市	登別市民会館	10月8日(火)	13:00～16:20	瀧 澤 義 守	登別市・西陵中	共 催 法制研と併催
日 高	新冠町	レ・コード館	8月5日(月)	9:00～12:00	東 峰 秀 樹	平取町・平取中	共 催 法制研と併催
十勝・帯広	幕別町	札内コミュニティプラザ	10月9日(水)	12:50～16:40	玉 川 弘 幸	鹿追町・瓜幕中	共 催 法制研と併催
釧路・釧路市	釧路市	釧路教育研究センター	8月30日(金)	13:00～16:00	杉 山 稔	釧路市・青陵中	共 催
根 室	中標津町	トーヨーグランドホテル	8月28日(水)	9:00～12:00	植 島 博 幸	羅臼町・春松小	共 催
オホーツク	北見市	端野公民館	10月4日(金)	13:00～16:30	小 路 典 弘	網走市・第五中	共 催

道中事務局日誌

5月24日～6月30日まで

月 日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
5. 28	火	日本教育会北海道支部第1回理事研修会(新沼, 木村)	15:00	ホテルライフオート札幌
29	水	北海道学校給食研究協議会学校部会引き継ぎ会(鎌田, 山田)	18:30	ホテルライフオート札幌
30	木	第3回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	ばらと北1条ビル
		北海道教育文化協会理事会・評議員会(和田)	18:00	プレミアホテル中島公園
31	金	公立高等学校入学選抜改善の検討に係る懇談会(木村)	10:00	道 庁 別 館
6. 3	月	日教弘北海道支部第1回運営委員会(和田)	15:00	ホテルライフオート札幌
5	水	令和元年度第1回オリパラ教育推進会議(法本)	13:00	道 庁 別 館
6	木	第5回小中合同研修会(五役)	10:00	道 小 事 務 所
		北海道租税教育推進協議会定期総会(鹿野内)	14:45	札 幌 第 2 合 同 庁 舎
8	土	日本教育会北海道支部総会・研修会(新沼, 和田, 木村, 新田, 伊東, 塩崎, 志道, 鹿野内, 鎌田)	15:00	ホテルライフオート札幌
10	月	第1回子どもの生活習慣づくり実行委員会(大村)	10:30	道 庁 別 館
11	火	北海道地域学校協働活動推進会議兼コミュニティ・スクール連絡協議会(佐藤)	14:00	道 庁 本 庁 舎
14	金	北海道PTA連合会第10回役員会・役員予定者会・正副委員長予定者会・新旧役員交流会(佐藤・小川)	13:00	OREビル・ホテルボールスター札幌
15	土	北海道PTA安全互助会総会・北海道PTA連合会第1回理事会(佐藤)	10:00	北 農 健 保 会 館
		北海道PTA連合会定期総会(新沼, 小川, 佐藤)	13:00	北 農 健 保 会 館
		北海道学校保健会評議会(鹿野内)	14:30	北 海 道 医 師 会 館
18	火	第44回全国育樹祭北海道実行委員会第2回総会(大村)	11:00	ホテル札幌ガーデンパレス
19	水	北海道教育の日総会(鹿野内, 和田, 木村)	16:00	ホテルライフオート札幌
		北海道学校給食研究協議会総会(鎌田, 山田)	14:30	北 海 道 学 校 給 食 会
22	土	日本教育会本部総会・研修会(新沼, 和田)	13:30	お茶の水ホテルジュラク
25	火	北海道公立学校教職員互助会第2回理事会(鎌田)	13:30	互 助 会
27	木	空知教育局長, 岩見沢市長・教育長表敬訪問(新沼, 和田, 木村, 越田)	10:45	空知教育局, 岩見沢市役所

発行者 会長 新沼 潔 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目
 北海道中学校長会 敷島プラザビル4F
 TEL011-251-1344 FAX011-251-1302
 編集者 道 中 情 報 部 <http://www.dochu-kochokai.jp>

本誌の発行にあたっては、作成方法等の見直しにより経費の削減に努めています。